

町政を^{ただ}質す!!

一般質問

令和3年第8回町議会(定例会) 一般質問には、5人の議員が登壇し、多岐に渡り白熱した議論が展開されました。 ※一部要約して記載

ここが聞きたい!



秋元 直樹 議員

『(仮称)子ども広場』のテーマや方向性は

8



佐藤 登 議員

白滝から小中一貫義務教育学校を

9



渡部 正騎 議員

進学などを機に町を離れた若者を呼び戻すためには?

10



戸松 恵子 議員

出産祝いについて遠軽町独自の取り組みの考えは

11



阿部 君枝 議員

子宮頸がん (HPV) 予防ワクチン積極的接種再開の個別通知を

12

一般質問とは?

一般質問は、町の行政全般(一般事務)に関し、執行者所見や疑義について質問できるものです。質問する議員も、受ける執行機関も十分な時間が必要なことから通告制とし、事前に質問内容を通告することとしています。

本町議会では質問と答弁がかみ合うように、全文通告制がとられています。

再質問からは、一問一答方式が採用されており、回数に制限なく質問時間を一議員 30 分以内としています。

一般質問

秋元 直樹 議員



問

『(仮称)子ども広場』のテーマや方向性は

答

森をコンセプトにした施設の整備を検討している

問 4期目を迎えた町長の

の所信表明の中では、子育て支援について、『子育て世代のニーズに合わせた、子育てのしやすい誰もが安心して暮らせるまち』にしていくと述べられています。

現在、遠軽町では子育て支援に関連し、旧ふあいらいとを活用した(仮称)子ども広場の実施設計が進められており、子育て世代からの大きな期待とともに、早期の完成が待たれています。

このような中、新たな屋内の遊び場をより良いものにするために、どのような方向性をもって現

在検討を進められているのか、以下の2点について町の考えを伺います。

1 既に北見市や紋別市

などで子どもの遊び場が設置をされている中で、町内外の子育て世代の利用を増やしていくためには、今の時代にあった特色や個性のある施設にすべきと考えます。どのような特色とテーマをもって既存施設との差別化を図っていきますか。

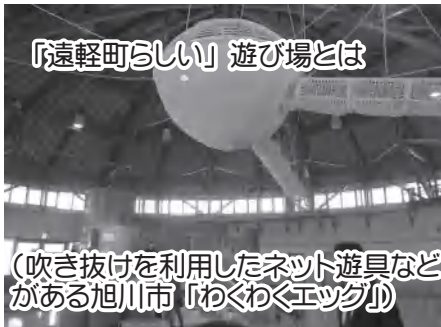
2 現在、町内の子どもたちが集う遊具施設については、有料と無料の施設が点在していますが、今回整備を行う(仮称)子ども広場の現段階での

利用負担の考え方は。

町長 1点目の質問については、施設的设计に当たっては、遠軽町子ども子育て会議委員の皆様のご意見や民生常任委員会からの報告書も参考にしています。

施設の基本的なテーマ

利用者の基本的なテーマ



は子ども子育て会議の委員の皆様のご意見により『森』をコンセプトにしており、施設内の吹き抜けを利用したネット遊具や滑り台のほか、ボルダリングや安全に走り回れるスペースなど、子ども

の五感や想像力、好奇心を育み、安全性や衛生面にも配慮した室内遊戯施設の整備を検討しています。

2点目の質問については、本施設は、令和5年秋頃のオープンを目指していることから、今後、施設の管理運営方法の検討を行うこととしておりますので、利用者負担に

についても併せて検討をして参ります。

施設維持のため、応分の負担は必要と考えていますが、施設のランニングコストやちゃちゃワールドなどの町内の公共施設のほか、他自治体における同様な公共施設を参考に検討いたします。

再問 対象年齢と幼児に

対しての遊びの提供についてはどのような想定をされていますか。

企画課長 対象年齢につ

いては0歳から6歳までの未就学児を基本に検討をしています。

また乳幼児向けの遊具の設置とスペースの確保も考えており、合わせて授乳室の整備も検討しています。

ただ 町政を質す!!

一般質問

佐藤 登 議員



問

白滝から小中一貫義務教育学校を

答

現時点では、義務教育学校についての考えはない

問 白滝から小中一貫義務教育学校化の検討を

1 平成28年度に「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行されてから湧別町などで施設一体型の小中一貫義務教育学校の導入が進んでいます。白滝地域の児童生徒数の減少が進んでいる中で、学校の再編を考えると、地理的条件などを考慮し、学校の広域的な統廃合は子ども達への負担を強いることになると考え、小中一貫義務教育学校を設置するべきと考えますが、町の見解を伺います。

教育長

現時点では、白滝地域に限定した義務教育学校についての考えはありません。

再問

地域住民からの声を待つだけではなく、町から積極的に話し合いを設け、地域住民、保護者、教育関係者の意向・意見を早めに確認すべきと考えます。それを踏まえて公共施設等総合管理計画及び学校施設長寿命化計画に明確な位置づけをすべきと考えますが見解は。

教育部総務課長

先ほどの教育長の答弁にありましたとおり教育

委員会としては地域住民の意見を聞いてから慎重に検討していきたいと考えております。

2 白滝地域に小中一貫義務教育学校を建設することにより防災機能を備えた学校、地域に開かれた学校を作ることができると考えます。

加えて合気道発祥の地である白滝の柔剣道場を地域のスポーツと町おこしに活用するために、老朽化した道場の改修が必要となることから、白滝小学校と白滝中学校の小中一貫校に柔剣道場を併設した施設一体型の義務

教育長

現時点では、白滝地域に限定した義務教育学校の考えはありませんが、今後においてそれぞれの学校・地域の状況

教育学校を建設すべきと考えますが、町の見解は。

人口減と学校再編はこれからも課題
(白滝中学校、白滝小学校)



問 遠軽駅前の土地について

答 早急に購入して活用を図る考えはない

問

現在建設中の芸術文化交流プラザの敷地に隣接している宅地が民間に売買された後に更地になっています。来年度のオープンに向けてこの土地を町が早急に購入して有効活用すべきと考えますが、町の見解を伺います。

町長

来年8月のオープンに向けて各種工事を進めているので、この土地を早急に購入して活用を図る考えはありませんが、将来必要になれば検討されるものと考えています。

一般質問

渡部 正騎 議員



問

進学などを機に町を離れた若者を呼び戻すためには？

答

医療・教育施設などの充実による環境づくりに努めていく

思っておりますが町の考えを伺います。

町長 医療と教育を守って

いくのは本当に大変で、これを守っていかないと、町外から来ていただいても長続きしないと考えます。医療と教育を作り上げていくことが町の基盤になると思っています。

また雇用については、例えば自治体職員採用試験を来年は札幌で行うなど、できることは行っていく考えであります。

問 遠軽高校を卒業後、

大学や専門学校へ進学のために遠軽を離れたのち、地元に戻ってくる人が少なく、若者が地元に着しない現実があります。

そのような中、令和2年3月に策定された「第2期遠軽町まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、社会増減数の数値目標を平成30年実績で200人減だったものから令和6年度時点で65人減にする目標が掲げられています。

この目標達成のため、スローライフ等応援事業やお試し暮らし事業を行っています。一方で進

町長

若者の将来のUターン意識の醸成を図るためには、郷土を愛する心を育む教育による施策が重要であると考えますが、

医療・教育施設などの充実とは、日常生活における快適性、利便性が確保されていることが、生まれ育った郷土の良さの実感に繋がると考えています。

今議会で提案した企業振興促進条例の一部改正による補助適用期間の延

長など、これまでも様々

な町内企業への支援による雇用環境の確保に努めているところであり、さ

らには、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、都会にいらなくてもテレワークで仕事ができるという地方移住への関心が高ま

まっていることから、若者を呼び込むための移住助成金やテレワーク助成金などのスローライフ等応援事業や国のテレワーク交付金を活用したシェアオフィスの整備も来年度の開業に向けて進めています。

このような新たな施策やふるさとの良さを、町

を離れた若者にSNSなどを通じて情報発信することも、必要な施策のひとつであると考えていますが、生活基盤である医療・教育施設などの充実による環境づくりに努めていくことが若者のUターンの動機付けとなるものと考えています。

再問

大学等の卒業予定者に対するアプローチが特に必要ではないかと思えます。地元企業とのマッチングや、大学や専門学校を卒業する予定の方たちが地元に戻るとインセンティブを得られるようなことも検討が必要と

若者が戻りたくなるふるさととは



町政を質す!!

一般質問

戸松 恵子 議員



問

出産祝いについて遠軽町独自の取り組みの考えは

答

出産祝いについて取り組む考えはない

問1

少子高齢化が進んでいる中で、子育てをしているお父さん・お母さんを町として応援していく取り組みが大切ではないでしょうか。子育て世帯の収入は、諸外国に比べてここ数十年増えていませんが、子育てには、たくさんのお金がかかります。他の町では、出産祝いに現金や商品券、新生児服や燃やすごみ袋を配布しているところがありますが、遠軽町独自の取り組みの考えはありますか。

問2

平成30年度に遠軽町で行われた「遠軽町子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の結果によると、「今行政や関係機関で充実してほしいものの第1位は「医療の充実や乳幼児医療費助成制度の拡充」でありダントツの54%です。

半数以上のお父さん・お母さんが土・日曜日も働いて子育てしています。

町長 町は子育て支援の時期は、妊娠期から高校



様々な形の子育て支援を

町長

限りある自主財源の中で、赤ちゃんから高齢者に至るまでの幅広い行政サービスの拡大が求

お金の心配なく病院にかかれるよう、せめて小学生まで医療費を無料化する考えはありませんか。

問 児童館のエアコン増設について

答 現在の取り組みで暑さ対策はできている

問 夏休みは朝からお弁当持参で「第2の家庭」のように児童館で過ごし

ています。令和2年度に集会室にエアコンが設置されていますが、走ったり遊びまわったりする遊戯室にエアコンがありません。汗だくになって遊んでいて熱中症のような症状になった子が数名いたと聞いておりますが、エアコン増設の考えはありませんか。

町長

暑い日はエアコンのある集会室に避難させるなどの対策も行い、工夫しながら過ごしています。北海道の夏を外や屋内で遊ばせて、子どもを育てるといっても必要ではないかと考えており、熱中症対策は十分に行い活動しています。

現在の取り組みにより暑さ対策ができていることから、エアコン増設は計画していません。

一般質問

阿部 君枝 議員



問

子宮頸がん（HPV）予防ワクチン
積極的接種再開の個別通知を

答

国の方針に基づいて個別通知を行う

問 厚生労働省は、子宮

頸がん（HPV）ワクチン接種の「積極的勧奨」を来年4月から再開するよう自治体へ通知し、接種を行う市町村が対象者へ予診票を送るなどして促すと報道がされました。また勧奨中止の間、対象年齢を過ぎた人も無料で接種できるよう検討されています。

そこで、次の点について伺います。

1 遠軽町では昨年度、情報提供等は必要事項をホームページで周知し、学校などを通じてリーフレット配布を実施しまし

たが、HPVワクチンの安全性・有効性等に関する情報提供の丁寧な対応として、個別通知をすべきと考えますが。

町長 国は最新の知見を踏まえ、改めて子宮頸がんワクチンの安全性につ

※キャッチアップ接種

ワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方への対応のこと



「アップ接種」による救済措置を設けるべきと考えますが。

町長 現在、国では実施に向けて検討をしていることから、本町としても、国の方針に基づいて実施する予定でいます。

問 3 歳児検診での視覚屈折検査機器の導入を

答 新たな機器の導入は考えていない

問 公益財団法人日本眼科医会は、3 歳児検診のあり方を30年ぶりに見直しました。その中で、3

歳児検診の2次検査において視覚検査に有用な屈折検査を導入し、視覚異常を検出することが望ましいとされています。

強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視が見逃された場合に治療が遅れ、十分な視力が得られないとの指摘がなされました。

最新機器の導入により、早期発見、早期治療に結びつける仕組みを取り入れられるべきと考えます。

町長 本町は遠軽厚生病院から目の専門のスタッフである視能訓練士を配置して検査を実施しています。

視力検査や眼位検査も実施でき、精度の高い検査が可能となっていることから、新たな機器の導入は考えていません。